

問1 患者数や病床数とスタッフ数について

①病床数 ※最大199床が1病院

0床	1～9床	10～19床	20～29床	30～39床	40～49床	
704	8	16	0	3	2	
50～59床	60～69床	70～79床	80～89床	90～99床	100床以上	
2	2	4	2	1	13	
無回答						
43						
					合計	800

在宅療養支援病院・診療所の88%が無床診療所であることがわかる。
また、在宅療養支援病院・診療所の91%が20床未満の診療所である。

②往診を行っている患者数 ※最大572名が1病院

0名	1～9名	10～19名	20～29名	30～39名	40～49名	
92	268	121	62	67	30	
50～59名	60～69名	70～79名	80～89名	90～99名	100名以上	
29	19	14	11	2	62	
無回答						
23						
					合計	800

患者数は1～9名が33.5%と最も多く、次いで10～19名が15.1%となっている。

③スタッフ数

医師 1,320名 (※最大59名)

1名	2名	3名	4名	5名	6名
554	145	38	19	15	7
7名	8名	9名	10名	10名以上	無回答
5	4	2	1	2	8

合計 800

医師の数は1名が69.3%と最も多く、次いで2名が18.1%となっている。
今回の調査に回答した医療機関で訪問診療に携わる医師が1,320名いることがわかった。

○医師の主な専門(複数回答有)

総合医	内科	外科	小児科	その他	無回答
184	530	140	43	184	15

○医師の主な専門について(記述回答の内容)

内科	呼吸器内科	消化器	一般	循環器
	内分泌	腎臓	認定医全般	呼吸器
外科	整形外科	乳腺	消化器	脳外科
	循環器	一般	腎・内分泌	泌尿器科
	脳神経	肛門	乳腺	胸部
小児科	一般	新生児科		
その他	呼吸器科	緩和ケア内科	泌尿器科	整形外科
	眼科	麻酔科	胃腸科	アレルギー科
	内科	皮膚科	ペインクリニック	神経内科
	肛門科	精神科	脳神経外科	婦人科
	脳外科	産婦人科	リハビリテーション	呼吸器内科
	乳腺科	循環器内科	リウマチ科	循環器科
	形成外科	耳鼻科	耳鼻咽喉科	形成外科
	胃腸科	心療内科	在宅医療	放射線診断
	救急科(専門医)	がん治療専門医	緩和治療	日本禁煙学会禁煙指導専門医

看護師 2,102名

1名	2名	3名	4名	5名	6名
109	154	147	102	58	23
7名	8名	9名	10名	11名~19名	20名~29名
14	8	2	11	11	5
30名以上	0名	無回答			
4	59	93		合計	800

看護師の数は2名が最も多く19.3%、次いで3名が18.4%となっている。
今回の調査に回答した医療機関で訪問診療に携わる看護師が2,543名いることがわかった。

医師1名に対して看護師は約2名が在宅療養支援診療に携わっている。

問2 主な訪問診療・往診の対象者について（複数回答有）

高齢患者	成人患者	小児患者	障がい児者	ターミナル患者	その他	無回答
765	364	53	202	458	23	22
40.5%	19.3%	2.8%	10.7%	24.3%	1.2%	1.2%

その他の回答内容	神経難病	PEGを行っている方	通院不可能な患者	認知症
	在宅酸素	精神疾患	膀胱カテーテル留置者	バルーンカテーテル留置者
	全盲	うつ病	障がい者	ペースメーカー
	ダウン症	尿閉患者	神経筋疾患	難病

問3 支援する患者さんに重症心身障がい児者はおられますか

いる	いない	不明	無回答	合計
155	615	23	7	800

医療機関に受診する時、必ず障がい者手帳や療育手帳を提示する必要はないため、医療機関で重症心身障がい児者であるか否かの分類は正確には行えない。

問4 超重症児者・準重症児者の判定基準に該当する方は何人おられますか

◆25点以上 60 機関 178名

1名	2名	3名	4名	5名	6名
33	9	4	7	2	3
7名	8名	9名	10名	11名以上	
0	0	0	0	2	

◆10点以上25点未満 85 機関 415名

1名	2名	3名	4名	5名	6名
35	14	12	5	1	1
7名	8名	9名	10名	11名以上	
2	2	1	3	9	

◆10点未満 121 機関 1,496名

1名	2名	3名	4名	5名	6名
43	17	11	7	9	4
7名	8名	9名	10名	11名以上	
1	3	1	5	20	

問5 どのような医療的ケアを実施していますか（複数回答有）

吸引	吸入	経管栄養	IVH	導尿	在宅酸素
153 13.9%	112 10.1%	175 15.9%	92 8.3%	134 12.1%	214 19.4%
気管切開部の管理		人工呼吸器の管理		その他	
109 9.9%	81 7.3%	34 3.1%			

※障がい児者を診察していると回答した202機関での回答

吸引	吸入	経管栄養	IVH	導尿	在宅酸素
85 14.5%	65 11.1%	92 15.6%	52 8.8%	59 10.0%	95 16.2%
気管切開部の管理		人工呼吸器の管理		その他	
70 11.9%	55 9.4%	15 2.6%			

◆その他（34）の記載内容

その子を持つ親（母）の話をただただ聞く	投薬	リハビリテーション
関節注射	ブロック注射	エボジンの注射
胃ろうチューブ交換	創傷処置	インシュリン注射
バルーン交換	点滴	褥瘡の管理
胃ろう	褥創処置	自己注射管理
経鼻経管栄養チューブの交換	ストーマ（人工肛門）の管理	病状の変化に応じ対応
耳鼻咽喉科的処置	NIPPV	摂食全介助
PEG	中心静脈ポート	イレマリレ
胃ろうの管理	留置バルンカテーテル	関節腔内注射
静注	全身状態の把握	尿道カテーテル
膀胱カテーテル管理	ASV	気管切開チューブの交換
リハビリ	整形外科疾患による痛み診療	訪問看護ステーションとの連携
食事介護	眼科治療	

回答のあった在宅療養支援診療所が実施している医療的ケアは在宅酸素が最も多く19.4%、次いで経管栄養15.9%、吸引13.9%となっている。
また、主な診療の対象者が障がい児者であると回答した202機関で実施している医療的ケアも在宅酸素が最も多く16.2%、次いで経管栄養15.6%、吸引14.5%となっている。

問6 重症心身障がい児者が利用されるに至った経緯を教えてください（複数回答有）

家族からの相談	かかりつけ医療機関の照会
107 38.6%	88 31.8%
相談支援事業所の依頼	その他
57 20.6%	25 9.0%

◆その他のうち
訪問看護事業所から 7機関
保健所から 5機関

◆その他（25）の記載内容で保健所・訪問看護事業所以外の内容

知人の紹介	勤務していた病院の繋がりで
一般外来に来院されてから相談にのっている。	介護や看護の事務所
入所している高齢者施設からの紹介	ケアマネより
特別養護老人ホーム入所者等	入院していた病院からの依頼
施設嘱託医のため	前院長からの引き継ぎ
口コミやネットの情報	

重症心身障がい児者が在宅療養支援病院・診療所の利用をするための繋ぎは医療機関間での紹介が31.8%。それを上回る38.6%が家族からの相談であり、当事者が自ら医療機関を探している状況がわかる。

問7 医療的ケアが必要な重症心身障がい児者への支援依頼に対応可能ですか

可能	条件付き可能
32	597

◆条件付き可能の場合の条件

①夜間など対応時間外の緊急時に受け入れる医療機関の連携態勢がある	209	21.6%
②往診では対応が困難な病状になった時に受け入れる医療機関の連携態勢がある	288	29.8%
③重症心身障がい児者のケアに慣れた訪問看護事業所が支援を行っている	138	14.3%
④医療的ケアの内容による	76	7.9%
⑤年齢による	156	16.1%
⑥小児科からの助言など医療機関の連携態勢がある	67	6.9%
その他	33	3.4%
※その他の欄に「受入不可」と記載	(24)	

④医療的ケアの内容によると回答した機関の対応できない内容

人工呼吸器の管理	気管切開部の管理
頻回・高度の要介護者	外科的処置が必要な場合
投薬、興奮状態の際の投薬	内科以外
ナースが怖がるような暴力行動	重症度の高い方等
重度な精神障害等	I V H
小児を扱う自信がない	レスピレータ
I V H変換	急変時の緊急処置
ターミナルケア	重症総合失調症

※人工呼吸器への対応ができないと回答した機関が17機関と最も多かった。

◆その他（33）の回答内容 ※受入不可との記載は除く

訪問介護の連携が必要	家族の十分な支援がある
家族と医療側の良好な関係を保てるかを見てから	当院通院中の患者さんに限って行っている
家族の理解	設備等の整備
精神科医のfollow必要	徒歩約20分以内圏
医療機関にまかせるだけでなく、休日・夜間等においても行政が対応できる連携態勢がとっている事条件が合えば。患者家族の希望と当院の可能な対応とが合えば可能。	

「条件付き可能」と回答した医療機関のうち、51.4%が医療機関の連携態勢を条件としている。また、年齢を条件にしている医療機関も16.1%あり、その多くは「小児は不可」「学齢期末満は対応できない」といった内容であった。

問8 医療での課題はどのようなことですか（複数回答有）

◆病院としての課題

緊急時の受入態勢	情報共有	医師の確保	看護師の確保	夜間体制	連携医療機関
291	75	172	159	277	85
27.5%	7.1%	16.2%	15.0%	26.2%	8.0%

◆医療全体としての課題

緊急時の受入態勢	情報共有	医師の確保	看護師の確保	夜間体制	連携医療機関
326	228	271	145	172	299
22.6%	15.8%	18.8%	10.1%	11.9%	20.7%

その他欄への記載内容

診察経験がとぼしいのではないか	専門施設が必要と思います
重症心身障がい児の生活を知る	根本的に人が足りません

問9 情報公開について

◆当事者や当事者家族に対して(無回答の医院・診療所除く)

病院・診療所名称や住所などを公開してもかまわない(例) リストの配布	208	26.0%
市町村ごとに病院・診療所数として公開するのはかまわない(例) ○○市：■件	146	18.3%
公開は希望しない	404	50.5%
無回答	42	5.3%

◆市町村や相談支援員へ対して(無回答の医院・診療所は除く)

病院・診療所名称や住所などを公開してもかまわない(例) リストの配布	248	31.0%
市町村ごとに病院・診療所数として公開するのはかまわない(例) ○○市：■件	139	17.4%
公開は希望しない	367	45.9%
無回答	46	5.8%